

昭和59年
常磐幼稚園
「こどもの日」



Memory 思い出

昭和52年
中幼稚園
「花壇にて」



昭和49年
中幼稚園
「おやつ時間」



平成4年 常磐幼稚園
「もちつき大会」

たくさんの
「思い出」
ありがとう

園庭を元気に駆け回り、教室では大きな声で歌う、そんな子供たちの姿はもう…。しかし多古町の歴史の1ページとして、いつまでも心の中に残り続けるでしょう。中幼稚園・常磐幼稚園お疲れさま…そしてありがとう。



昭和37年
常磐幼稚園
「おゆうぎ会」



平成6年 中幼稚園「発表会」



昭和33年 常磐幼稚園「開園式」

開園当初は、両幼稚園ともに2学級編成でスタートしました。数年後に1学級編成となり、徐々に園児の数も減少。今年が最後の卒園式となった中幼稚園においては16人、常磐幼稚園は8人の卒園生となりました。少子化の影響もあり今年4月、多古幼稚園と統合することになりました。今後は平成26年度に開園を予定している「幼保一元化施設（仮称）多古こども園」へと移行し、充実した幼児教育と保育環境が整備されます。

廃園することとなった中幼稚園は、昭和34年の開園から1,400人、常磐幼稚園は、昭和33年の開園から1,594人の卒園生を送り出しました。

中幼稚園・常磐幼稚園の先生の「思い出」や「中地区・常磐地区の皆さんへの感謝の気持ち」



中幼稚園

菅澤 衛男園長先生

長い間ご苦労さまでした

園長として2年間お世話になりました。中幼稚園はとっても元気な幼稚園でした。地域とのつながりも強く、中地区全体で幼稚園を支えていただき、維持管理にも地域の方々のご尽力をいただきました。

心に残っているのは、園長として初めての入園式と幼稚園最後の卒園式です。今でも元気に返事をする園児たちの顔を思い出します。園児の家族の中にはたくさんの卒園生がいますので、皆さんの思いも特別なものがあつたことでしょう。

まだ中幼稚園がなくなったという実感はわかりません。寂しい気持ちはありますが、最後の園長として16人の園児たちを送り出して、有終の美を飾ることができ光栄に思っています。「中幼稚園よ、長い間ご苦労さまでした」

中幼稚園を忘れないで

自分たちも中幼稚園の卒園生なので、何だか実家にいるようで心が落ち着きました。園の近所の皆さんも顔なじみで、地域密着型の幼稚園です。

廃園と聞いてもピンとくることができず、日々園児たちと過ごすことが精いっぱい、あっという間に3月を迎えました。とにかく園児たちを無事卒園させることを優先に考え、自然に過ごすようにしました。

卒園生は小学校に上がると、グラウンドの築山に登り幼稚園に向かって手を振ってくれましたが、それを受けることができなくなると、とても寂しく思います。卒園した子供たち、中幼稚園を忘れないでください。私たちも決して忘れません。



中幼稚園

鈴木 佳代子先生 中西 宏江先生



常磐幼稚園

岡澤 義信園長先生

地域に愛され、地域で育って

常磐幼稚園は、昭和33年4月18日に開園し、1,594人を送り出してきました。そして最後の卒園生8人のうち2人の祖父は、常磐幼稚園第1期生でした。親子三代54年の歴史と伝統を紡いできた常磐幼稚園も、幕を下ろすこととなりました。

少子化に伴い廃園することとなりましたが、今後は、多古幼稚園、そしてこども園へと引き継がれていくこととなります。これからも、子供たちが地域に愛され、健やかに地域で育っていくことと思います。

長きにわたり、常磐幼稚園を支えていただいた多古町、そして、地域・保護者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

常磐の色はすばらしかった

常磐地区は地域色豊かで、保護者の方も地区の方も幼稚園の運営にとでも協力してくれました。

常磐小学校と合同で行う運動会では、園児が少ないので5年生と一緒に紅白リレーを走ってくれたり、6年生はダンスを踊ってくれました。親子ダンスの衣装をいろいろと工夫して作ったことは、楽しい思い出のひとつです。その衣装を着て踊る園長先生の姿は忘れられません。

豊かな自然の中で、のびのび育った子供たちは、みんな仲良く思いやりを持ったやさしい子供たちです。これからは自分の思っていることを相手に分かるように伝えて、いろいろなことに興味を持ち挑戦してもらいたいです。



常磐幼稚園

佐藤 葉子先生